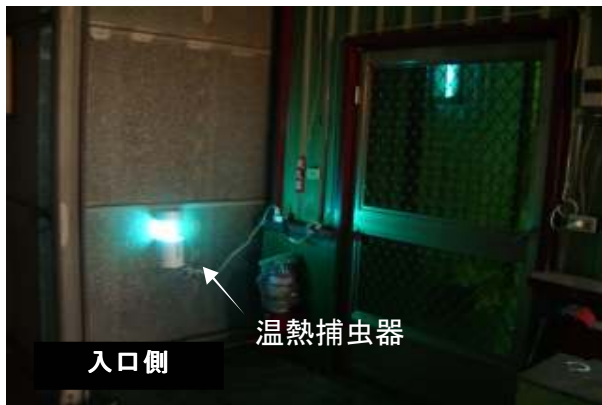


データ 1. 医療用資材製造工場でのフィールド試験

工場内では、工程上、綿繊維の飛散が多く、高電圧式の捕虫器では火災の危険性があり、また、粘着テープでは、交換頻度を非常に早くしなければならない状況にあるため温熱捕虫器のフィールド試験を実施した。

●試験結果：

粘着テープ式の捕虫器と温熱捕虫器を並べて約3ヶ月使用した試験では、テープ式の粘着捕虫器に付着した虫の数は増えなかったが、温熱捕虫器の捕虫容器の中に捕獲された虫の数は増えて多くっており、誘引捕獲効果についても高い評価が得られた。その後、飛昆虫対策用として2工場で51台導入し使用されている。



データ 2. 花卉栽培温室ハウス内でのフィールド試験



小型ビニールハウス



大型ビニールハウス



1階ガラス温室

●試験結果：

- ・装置が取り扱いやすい
- ・装置が清潔で良い
- ・捕獲された虫が除去処理しやすい
- ・捕獲虫の種類が多い。アブラムシ程度の大きさも捕獲できる
- ・虫体が乾燥して硬く、腐敗が無く長期保存可能と思われ、簡単に標本ができる

* 付記：本試験は横井政人氏(元千葉大学園芸学部教授)の花卉栽培ハウスで実施された。

データ 3. 大規模レジヤ施設内のレストランなどにおけるフィールド試験

事例1: (試験期間: 4/11~5/4の捕獲状況)



捕獲された昆虫: 大型バエ類21, コバエ類多数、その他アブ、ガ類など少々

- 試験結果: 壁掛けや床置きなどいろいろな所に配置でき、約8ヶ月のフィールド試験で様々な昆虫を捕獲することができた。その後、飛昆虫対策用に21台導入し使用されている。

データ 4. 都市近郊の3階建てビルの3Fのベランダにおけるフィールド試験

試験期間	時間帯	気温(°C)	温熱捕虫器	粘着捕虫器
9/11~9/12	20:30~6:00	24.8~23.1	325	291

*粘着捕虫器(誘引ランプ: 20W、粘着シート形状: 幅50×長さ500mm)

- 試験結果: 3階のベランダのような高い場所においても粘着式と同等以上の捕獲数が確認された。



粘着捕虫器では捕獲された昆虫が粘着面よりズレ落ちてくる状況が観察された。

データ 5. 都市近郊の戸建住宅の庭におけるフィールド試験

試験期間	時間帯	気温(°C)	温熱捕虫器 捕獲数	*粘着穂虫器 捕獲数
8/30~8/31	20:20~6:05	24.5~23.7	(西側) 175	(東側) 51
8/31~9/1	20:45~6:15	23.1~22.4	(東側) 75	(西側) 45
9/1~9/2	20:00~6:15	24.2~22.6	(西側) 106	(東側) 77
9/2~9/3	20:00~4:05	24.1~23.4	(東側) 129	(西側) 65

試験方法:

住宅の庭の東側と西側に1mの高さで温熱捕虫器と粘着捕虫器を交互に置き、捕獲状況を調査した。

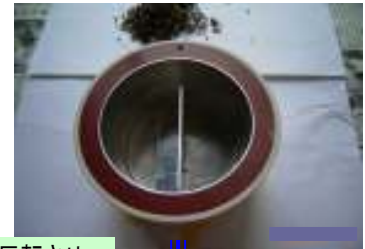
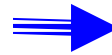
*粘着捕虫器(誘引ランプ:20W、粘着シート形状:幅50×長さ500mm)

●試験結果: 温熱式は粘着式より1.4~3.4倍の捕獲数が確認された。

戸建住宅の庭における設置状況 (1)



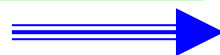
戸建住宅の庭における温熱捕虫器による捕獲状況 (2)



捕虫容器を反転させ
捕獲虫を紙面の上
に落とし回収した。



戸建住宅の庭における温熱捕虫器による捕獲状況 (3)



データ 6. 養鶏場における温熱捕虫器と粘着捕虫器のフィールド試験(その1)

事例1 養鶏場の捕獲昆虫の同定結果

試験期間	気温	
7/6~7/13	21~34℃	
種類	温熱捕虫器	粘着捕虫器
イエバエ	68	1
オオイエバエ	257	293
ヒメイエバエ	68	74
その他オオバエ	19	3
(大型ハエ合計)	(412)	(371)
コバエ類	1180	260
その他ハエ目	130	15
蛾	143	170
甲虫	335	10
ハチ	111	0
その他	238	60
総合計	2549	886

試験方法:

養鶏場内の壁面1.7mの高さに温熱捕虫器と粘着捕虫器を約1.8m離して設置し、捕獲状況を調査した。

事例2 養鶏場の昆虫の捕獲数

期間:9/16~24 気温:21~38℃

ハエ:

粘着捕虫器の**16.8倍**(235匹)

ハエを除く4~5mm以上の昆虫:

粘着捕虫器の**4.5倍**(2420匹)

ハエを除く3~4mm以下の昆虫:

粘着捕虫器の**約1.5倍**(約6000匹)

* (備考):

粘着捕獲されたハエの捕虫器底面への落下率は**50%**であった。

* 粘着捕虫器(誘引ランプ:20W、粘着シート形状:幅50×長さ500mm)

養鶏場全景

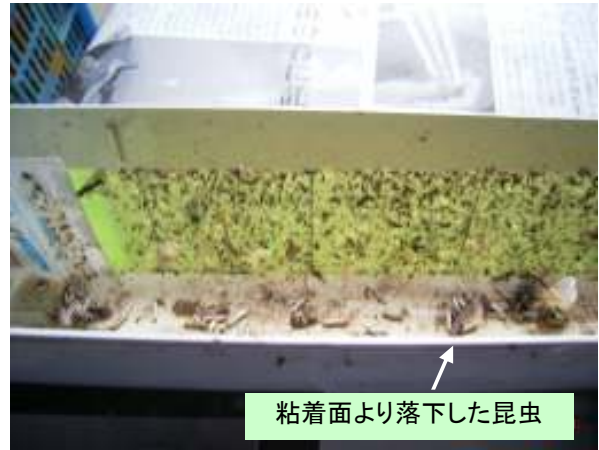


捕虫器の設置状況



データ 7. 養鶏場における温熱捕虫器と粘着捕虫器のフィールド試験(その2)

粘着捕虫器の捕獲状況



温熱捕虫器の捕獲状況



●試験結果:

- ・温熱方式は全体的に粘着方式より捕獲率が高い。(1.1~16倍)
- ・粘着方式は温熱方式に比べ大きな昆虫が捕獲されにくい。
- ・粘着方式では羽に鱗粉(りんぷん)のある昆虫(蛾など)は捕獲しにくい。
- ・粘着方式は小昆虫が多く附着すると粘着捕獲性能が著しく低下する。
- ・粘着方式では捕獲されたハエが多く落下していた。(落下率16~50%)
- ・温熱方式では小昆虫から大昆虫まで捕獲できる。
- ・温熱方式は後処理が清潔で簡単である。
- ・温熱方式では乾燥状態で形がきれいなので同定しやすい。

データ 8. 市街地の車庫におけるフィールド試験

市街地の車庫で捕獲された昆虫の同定		
試験期間: 3/29~4/9		
気温: 4~18℃		
種類	温熱捕虫器	粘着捕虫器
チョウハ ^ハ 類	5	9
ショウジョウハ ^ハ 類	2	
ノミ ^ハ 類	5	3
ハヤトビ ^ハ 類	1	1
半翅目		1
トゲハネ ^ハ 類	8	5
ユスリカ類	24	5
クロハ ^ハ ネキノコ ^ハ 類	4	5
ガガンボ類	2	
双翅目	9	
合計	60	29

試験方法:

普通車4台程度が入る車庫内の壁面1.7mの高さに温熱捕虫器と粘着捕虫器を約2m離して設置し、捕獲状況を調査した。

* 粘着捕虫器(誘引ランプ: 20W、粘着シート形状: 幅50×長さ500mm)

● **試験結果:** 外気温が低く昆虫の少ない時期であったが捕獲数が粘着式より約2倍多いことが確認された。

データ 9. 居住空間に放出したイエバエの室温と捕獲数の試験

試験方法:

5(W)×4(D)×2.8(H)mの会議室に温熱捕虫器と粘着捕虫器を2.5mの間隔で配置し、室内灯を消し室内を暗くし、室温26℃と20℃でそれぞれイエバエ100匹を放し捕獲数を比較した。

試験期間	時間帯	室温(℃)	捕虫器捕獲数	
			温熱捕虫器	粘着捕虫器
10/13	19:00~22:00	26	41	41
		20	20	8

* 粘着捕虫器(誘引ランプ: 20W、粘着シート形状: 幅50×長さ500mm)

● **試験結果:** 温熱捕虫器では粘着捕虫器と比較して、捕獲数が室温26℃で同数、20℃での2.5倍となり、温度による誘引効果が確認された。